

の の い ち ち ゅう お う

野々市中央地区

(石川県野々市市)

- 計 画 期 間 平成 26 年度～平成 30 年度
- 面 積 58.0 h a
- 交付対象事業費 5,795.8 百万円
- 市人口 57,701 人 (地区内人口 3,130 人)

ポイント

地区全体を本市のシンボルとすべく、多くの市民が交流することによるまちなか再興をきっかけとして、本市に対する市民満足度向上を図る。

地区概要

公的不動産を活用した2箇所の都市拠点の整備充実を図り、多くの市民がまちなかに集い、出会い、交流する空間を提供する。事業実施にあたっては、民間活力(PFI方式)を活用し、付加価値を加えた施設整備・運営を目指す。

目 標

旧北国街道をはじめとする歴史・文化資源を活用した、地域の魅力向上と活力再生によるまちなかにぎわい再生を図る。教育・文化施設の整備や施設間の機能連携など、多くの人が出会いふれあいを育む環境整備を図り、にぎわい効果の市全域への波及を期待。

指 標

まちなか再興のために必要な都市拠点の整備充実と拠点施設による市民交流の指標として、施設の利用者数(日あたり)を設定した。また、地域の魅力向上や交流人口拡大の指標として、観光ボランティアガイドの活動回数(年あたり)を設定した。

地域交流センター利用者数	154 人/日 (H24)	→	253 人/日 (H30)
観光ボランティアガイド活動回数	18 回/年 (H24)	→	20 回/年 (H30)
市立図書館利用者数	220 人/日 (H24)	→	1,379 人/日 (H30)

事業内容

基幹事業 (5795.8 百万円) → 地域中心交流拠点施設 (誘導施設: 商業施設、高次都市施設: 公民館、大学連携拠点) 文化交流拠点施設 (誘導施設: 図書館、高次都市施設: 市民学習センター) 広場 (2 箇所)、市道整備 (4 路線)、情報板整備 (9 基)

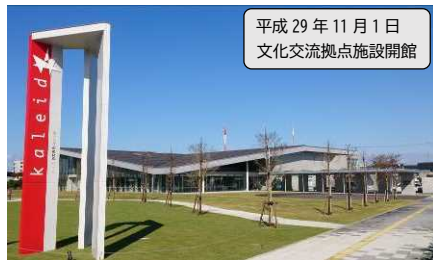


地区の現況と課題

古くから本市の中心として発展してきた当該地区では、にぎわい回帰を目指し、様々な取り組みが行われている。

地区内の重要な幹線道路である旧北国街道は、歩行者に優しい歩車融合道路の整備と、歴史的沿道景観の保全を大目標として、平成17年～平成23年にかけて無電柱化整備が行われた。この整備により、かつての北国街道の面影を取り戻し、街並みの魅力が一段と増した。また、この事業がきっかけとなり、地域住民有志による「北国街道 野々市の市」という地域活性化イベントの企画・運営や地域住民や市内大学生により構成された観光ボランティアガイド「ののいち里まち倶楽部」も設立された。

このように、ハード整備から派生する二次的な好影響もたらされ、市総合計画に掲げる「市民協働のまちづくり」、「野々市ブランドの確立」に向けた機運が着実に高まりつつある。今後は、このような市民活動を後押しすることにより、さらなる機運の醸成を図るとともに、地区のもつ魅力のさらなる発信や地域活性化のために、市内の大学が保有する人的資源・知的資源の活用策の検討と確立が必要である。



計画策定プロセス

野々市市都市計画マスタープランおよび野々市市立地適正化計画

本計画の上位計画である野々市市都市計画マスタープランにおいて、中心市街地の活性化に向けて、歴史的な街並みや地域に伝わる伝統行事などを活かしたまちづくりをすすめることおよび「地域中心交流拠点」や「文化交流拠点」として、文化・コミュニティ施設の整備充足などによる、市民が憩い集える拠点としての魅力向上を基本方針としている。

上記2箇所の拠点は、野々市市立地適正化計画において都市機能誘導施設に位置付けられており、野々市市の目指すコンパクトシティ形成に大きな役割を果たすものである。



まちづくりシンポジウムの開催

市制施行1周年を記念して『歴史ある景観が導く“まちづくり”と“にぎわい創出”～市民と「ともに創り、ともに育む」賑わいと交流のまちづくりを実践するために～』と題したまちづくりシンポジウムが開催され、賑わい創出と交流人口拡大のための意見交換が行われた。



野々市中央地区土地利用構想の策定

まちなかににぎわい回帰をきっかけとした市全域の活性化のため、必要な都市機能の配置について検討し、市が保有する公的不動産の利活用方針を「野々市中央地区土地利用構想」として定めた。